

## 藤孝改め 幽齋がつくった城下町・舞鶴



### 田辺城趾(舞鶴公園)

天正年間(1582～1592年頃)に、細川幽齋が築城。「舞鶴城」とも言われ、現在の舞鶴市の地名の由来とされています。公園内には、資料館や古今伝授の故事にちなんで作られた庭園「心種園」(右上)などがあります。



### 桂林寺

田辺籠城の際、桂林寺の和尚や弟子が大手門の防備に加わり、活躍したと伝わります。また、境内には、田辺城を包囲する西軍の陣の一つが置かれたといわれています。



### 西駅交流センター

細川幽齋や田辺城下町の歴史などについて知ることができます。

本能寺の変が起きた1582年、藤孝は家督を息子忠興に譲り、剃髪して幽齋玄旨と名を改め、田辺城の本格的な建設にとりかかります。田辺城は、平地に建てられた平城で、現在のJR西舞鶴駅から北の方向に南北に伸びるようにつくられました。城を建てる予定の場所は、いくつもの川が流れ込む湿地帯で城や城下町を作るには不向きな場所であったため、川の流れそのものを大きく変えてしまう「瀬替え」という大規模工事が行われ、新たに伊佐津川が作られました。地表の川を瀬替えしても伏流水という地下水が流れており、あちこちで湧き出ていました。

田辺城ではその湧き水を「真名井の清水」として利用し、都市上水道が整備され、城下に引いて飲料水のほか田畑の灌漑や伊佐津の紙すきなどにも大切に使われました。城内に家臣を住まわせるだけでなく、城の周りにいろいろな技術を持った職人や商人なども集めて町を作ることと、その地域の政治や経済の中心地となる城下町が形成され、ここ舞鶴に多くの人が集まり、現在の西地区の基礎となりました。

## 関連イベント

### 大河ドラマ「麒麟がくる」スマホdeスタンプラリー

【期間】来年1月11日まで

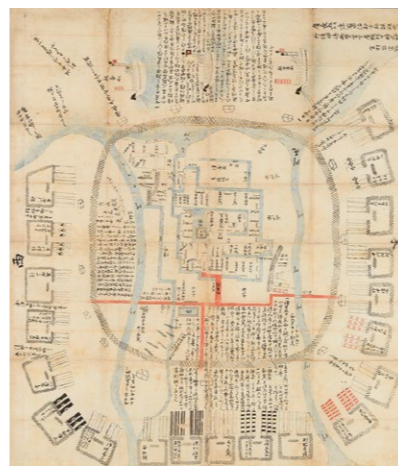
【内容】明智光秀、細川藤孝(幽齋)、ガラシャ・忠興ゆかりの地である11市町をスマートフォンで巡るスタンプラリー。舞鶴市内は、田辺城趾(舞鶴公園)、西駅交流センター、郷土資料館、とれとれセンター、桂林寺の5か所がポイントとなっています。右コードからアクセス可。



時は1600年。全国の大名が東軍・西軍に分かれて戦った関ヶ原の合戦。そのおよそ2か月前に、合戦の勝敗を左右する戦いがここ舞鶴の地で起こりました。関西に居ながら東軍についた細川家に、襲いかかる西軍石田三成方の軍勢。わずか5百人の細川軍は田辺城に立て籠もり、1万5千人の西軍が取り囲みました。

## 田辺籠城戦

この「田辺籠城」は52日間にもおよぶ落城寸前となりますが、立て籠もる細川幽齋が古今和歌集の秘事口伝「古今伝授」の伝承者であったことから、後陽成天皇の勅命により城の包囲網は解かれました。田辺籠城に釘付けとなった西軍1万5千人は、関ヶ原に加勢できず、合戦の勝敗に影響を及ぼしたと言われています。



▲田辺籠城図(舞鶴市蔵本)

年齢	出来事
1歳	天文3年(1534) 4月22日京都で生まれる。父は、三淵晴員。
5歳	天文7年(1538) 12代将軍足利義晴に拜謁し、細川元常の養子となるよう命ぜられる。
13歳	天文10年(1541) 元服し、13代将軍足利義隆のち義輝の諱を受けて藤孝と名乗る。嫡男・忠興が生まれる。母は、麿香(じゃこう)。
30歳	この頃、明智光秀と出会う。
34歳	織田信長、足利義昭を奉じて京都に入る。
35歳	足利義昭15代将軍となる。
39歳	「古今伝授」の誓状を提出する。(1576年、古今伝授の証状を受ける)。
40歳	室町幕府が滅亡する。
45歳	光秀と共に、丹波・丹後を攻め入る。忠興・玉が結婚する。
46歳	光秀と共に丹後に攻め入る。
47歳	信長から丹後国を与えられ入国。宮津城を居城とする。
49歳	「本能寺の変」で信長が死去。藤孝は、光秀の味方をせず、剃髪して幽齋玄旨と号し、家督を忠興に譲る。田辺城の築城を始める。
56歳	忠興、妻・玉を味土野に幽閉する。秀吉(山崎の戦い)で光秀を討つ。秀吉から細川父子に丹後国11万7千石の知行を与えられる。
67歳	細川ガラシャ(玉)、大阪屋敷で死去。田辺籠城戦。
70歳	家康、江戸幕府を開く。
77歳	京都三条車屋町の屋敷で死去。南禅寺天授庵に葬る。

### 細川藤孝(幽齋)年表

※年齢は教える



# 麒麟がくる

1月から放送が始まったNHK大河ドラマ「麒麟がくる」。舞鶴ゆかりの人物、細川藤孝(幽齋)が登場することを知っていますか。主人公・明智光秀の盟友として活躍した細川藤孝(幽齋)の人物像や彼が築いた田辺城に今注目が集まっています。



盟友  
明智 光秀  
織田信長の重臣として丹波国(現在の京都府と兵庫)平定など、その勢力拡大に貢献。天正10(1582)年、京都に滞在中の信長を討つ「本能寺の変」で知られるが、部下や領民から慕われる名君としての側面も持ち合わせていたという。

光秀の盟友、戦国きっての文化人  
細川 藤孝(幽齋)  
足利義昭の上洛に尽力して以来、光秀と親交を深め、嫡子・忠興と光秀の娘・玉(ガラシャ)の結婚で親類となる。また、武道だけでなく、歌道の奥義「古今伝授」の総伝者であるなどさまざまな文化に通じる一流の文化人であった。



父と娘  
母と息子  
夫婦  
文武に通じ、妻を愛した男  
細川 忠興  
玉(ガラシャ)との結婚後は、勝竜寺城や宮津城で仲睦まじい生活を送る。父・藤孝(幽齋)同様、文武に通じ、茶でも千利休の高弟「利休七哲」に数えられる。関ヶ原の合戦の折には西軍の人質になることを拒み、家臣に命じて自らの命を絶つた。

時代に翻弄された、悲劇の女性  
細川ガラシャ(玉)  
光秀の三女で16歳の時に、細川忠興と結婚する。「本能寺の変」を光秀が起して以来、苦難の中でキリスト教に改宗し、「ガラシャ」の洗礼を受ける。関ヶ原の合戦の折には西軍の人質になることを拒み、家臣に命じて自らの命を絶つた。